
パワプロ小説 百合高校

林 晃佑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パワプロ小説 百合高校

【Nコード】

N2340I

【作者名】

林 晃佑

【あらすじ】

シニアで大活躍した権道紅夜けんどうこうやが

超弱小野球部の百合高校に入学した・・・

1、入部

1、入部

「ストライツ！バッターアウトオオオオオオオオ！！！」

ワーワーワー

シニアリーグ全国大会決勝、今大会ノー・ピッチャーとも言われる

エースの遠藤雅紀えんどうまさきとノー・キャッチャーといわれる俺・・・

権道紅夜けんどうこうやの黄金コンビで日本一のシニアになった

すぐさまこの二人に野球推薦の手紙が来た

遠藤はすぐさま常勝軍団、帝王実業に行ったが

俺はまったくも強豪に行く気はなく、ここ百合高校ゆかりこうこうに行く事に決めた。

権道「あゝ、野球部の部室はどこにあるんでしょうか・・・？」

矢部「あいにくオイラも今探してるところでやんす・・・」

権道「君も野球部志望？」

矢部「ええそうでやんすけど・・・って！君はもしか、権道紅夜くんじゃないでやんすか！」

権道「ああ・・・まあ・・・」

権道は目立つのは嫌いなので、控えめにボソツと言った、

そうすると、校舎の陰にひっそりと小さいボロ臭い野球部室を見つけた。

矢部「ここ・・・でやんすよねえ・・・」

権道「多分な・・・」

ガチャツ

？「なんやお前ら？」

そこには体の大きな男が座っていた

権道「野球部志望の権道と」

矢部「矢部でやんす！」

？「そうか！お前ら新入部員か！やっと、この野球部も4人やな！」

権道「よ・・・」

矢部「4人ーーーーー？」

山田「ワイは2年のキャプテン、やまだしょうへい山田翔平や、ほなおおきに！」

権道「関西弁・・・」

山田「神奈川は住みにくいとかやのー！大阪の方がええわ！な？そう思うやろ？」

権道「あいにく、旅行でも大阪に行った時もないんで・・・生まれも育ちも神奈川だったし・・・」

山田「なんだ、話の合わないやつちゃのー！」

矢部「・・・4人って言ったでやんすが、もう一人はどこでやんすか？」

山田「初野か？あいつは練習熱心な奴でのー！」

初野「よ！山田！おっ！新入部員か！2人も！やつほーい！」

権道「権道紅夜です！」

矢部「矢部あk・・・」

初野「権道紅夜・・・だと？なんでこんな弱小以下の高校にいるんだ？」

権道「いえ・・・別に意味はないですけど・・・」

初野「そうか・・・おっと！俺は初野優輝^{はつのゆき}！2年生だぜ」

矢部「よろしくでやんすー！」

初野「あと、しょうがない事なんだが、試合は見ての通り、4人しかいないからどうにもならない・・・」

権道「うう・・・」

矢部「じゃあ、オイラたちが、探してくればいいでやんすよ・・・」

権道「その手があるじゃないか！」

山田「じゃ、頼んだかな！」

権道「はい！」

2、百合高校野球部、始動！

2、百合高校野球部、始動！

山田「じゃあ頼んでかな！」

権道「はい！！！」

タッタッタ素早く部室を出て行った・・・

・・・

矢部「しかし、野球部の勧誘っていつでも・・・」

権道「ムズかしいものなんだよなあ・・・」

？「俺が入ってやろうか？」

権道「え・・・？君は？」

？「さんじょうえいこう三条栄光、中学は一応野球部でセンターでスタメンだったんだ！」

矢部「あ・・・ありがたいでやんすー！」

権道「ふー。やっと一人目だね！」

三条「役に立てて嬉しいぜ！」

権道「うん！ありがとな！そしてこれからよろしく！」

その後も・・・ちやくちやくと見つけ・・・あと2人のとこまで追い詰めた！

矢部「あと2人でやんすか・・・」

権道「ふう・・・疲れたなあ・・・」

山田「おまえらあああああああああああああ！！！」

矢部「山田キャプテン、どうしたでやんすか」

山田「今、女が入部志望したんだ！あ、こいつこいつ、早川あおい・・・」

あおい「早川あおい（はやかわあおい）だよ！よろしくね！」

矢部「よろしくでやんすー！かわいいでやんすー！」

あおい「あんだよお？このクズメガネ！！」

矢部「く・・・mgでやんすう・・・」

権道「じゃあ、本当に野球部入部でいいんだね？早川さん・・・」

あおい「うん！でも、これからはあおいって呼んでくれる？」

権道「うん、分かった」

矢部「あおいちゃんてやんすー！」

あおい「てめえは呼ぶんじゃねえ！！！」

矢部「＼（＾０＾）ノオワタてやんすー」

山田「じゃ、あと一人頼んだぞ！」

権道「ふう・・・あと一人か・・・」

矢部「ムリでやんすよー・・・」

あおい「それなら、私と仲のいい子がいるんだけど、その子、シニアですつとやってたんだ・・・」

権道「え？マジで？じゃあ、紹介してくれよ！」

あおい「分かったわ・・・」

そついうとあおいは校舎に戻っていった・・・

あおい「お待たせ！じゃあ、紹介するね」

春川「春川楓です！よろしく！」
はるかわけえで

矢部「よろしくでやんすー！かあわいいでやんすう！」

春川「うっせーんだよ！馬鹿！！」

矢部「ウツダシノウ・・・」

権道「春川、久しぶりだな・・・」

春川「そういやそうね・・・」

矢部「知り合いでやんすか？」

権道「小学校の時同じリトルで上がってきたんだよ・・・」

矢部「そうでやんすか・・・」

権道「しかしこれで・・・9人そろったぞおお！！！」

矢部「ばんざいでやんすー！」

次の日・・・

山田「監督が決まったでー！おまいらー！」

権道「おおー！」

瞳監督「瞳^{ひとみ}怜^{れい}です・・・」

矢部「お・・・女の監督でやんすかー！甲子園より嬉しいでやんすー！」

早川「けっこう話しやすそうな監督ねー」

三条「・・・」

権道「よし！これで百合高校野球部始動だ！」

2、百合高校野球部、始動！（後書き）

部員を紹介します・・・

権道紅夜^{けんどうこうや}1年 捕手

1年とは思えない程の守備力とセンス抜群のバットコントロールを持つ

矢部明雄^{やへあきお} 1年 外野手

俊足巧打のモテモテメガネ（自称）趣味はプラモいじり

山田翔平^{やまだしょうへい}2年 投手・外野手

破壊力の球速を持つ、大阪弁のキャプテン

初野優輝^{はつのゆうき} 2年 遊撃手

チーム一の俊足、50m5秒台を出した時もある。

三条栄光^{さんじょうえいこう}1年 外野手

すごい肩を持ち、守備の要ともいっている

早川あおい（はやかわあおい）1年 外野手・投手
チームのムードメーカー、抑えや中継ぎをする投手

春川楓^{はるかわけ}1年 三塁手

努力のカタマリでもある、弾丸ライナーのパワーを持つ

新田駿^{にったしゅん}1年 一塁手

中学時代は柔道部で、驚くべきのパワーを持っている

石崎勇次^{いしざきゆうじ}2年 二塁手

粘りまくる投手殺しの選手、1年の時は弓道部で精神を鍛えていた。

3 山田翔平

実践練習中・・・

山田「うおおおおおおお」

山田の手から放たれたボールは大きくキャッチャーの頭上を越える・
・

権道「やっぱり問題はコントロールですね」

山田「くそお・・・」

初野「山田、力ぬけ！コントロールを意識しろ！」

山田「ああ！」

シュツ！

コントロールを意識し過ぎて、コースは完璧の内角低めだが、
87
キロの遅い球がトロツとくる

権道「これじゃあ、話にならないですよ？」

山田「くっそ！わいは何故コントロールくらいできへんのや！」

瞳監督「キャプテン」

マウンドに座りこんだエース・・・山田に瞳監督が話しかける

山田「なんや？」

瞳監督「あなたに足りないのは集中力だと思うの」

山田「そりゃそうや！だけどそれができへんから、コントロールが
できへんのじゃい！」

瞳監督「じゃあ、このドリル5冊、今日中にでかしときなさい」

山田「（・A・）ハア？なにを言っとなるじゃ！ボケイ！」

瞳監督「・・・私を信じなさい、コントロールできるようになりた
いんでしょ？」

山田「でも・・・俺は・・・勉強ができねええんだよおお
おおおおおおお」

瞳監督「（コントロール以前の問題だわ）しょうがない、解説付き
のノートも貸すから」

山田「・・・はい」

瞳監督「じゃ、頑張ってね！」

権道「山田さん・・・」

あおい「心配だね」

新田「だな」

石崎「俺は俺の練習をするだけだ」

春川「わぁ、クール！」

- 次の日 -

山田「やって・・・きたぞ・・・」

瞳監督「ご苦労さま、さて投球練習でもしましょうか」

山田「おっす！」

権道「山田さん！落ち着いて頑張りましょう！！！」

山田「もちろん・・・だ！！！」

「だ」と言った瞬間、ど真ん中に重いストレートが流れ込んだ

スパアアアアアッ！！

ああい「おおお！」

初野「やったな！山田」

そうすると突然山田が監督のもとに走っていった

山田「監督！ありがとうございます！！！」

瞳監督「はいどうも」

？「・・・権道、お前確実にパワーアップしてるな・・・あの150キロ越えの球を簡単に捕るとは」

？「おい！遠藤！ランニングサボってないでさっさと来い！」

遠藤「あ、すいません・・・高島キャプテン・・・」

高島「つたく・・・」

翌日・・・

瞳監督「さっそくだけど・・・来週、練習試合が決まったわ！」

突然の事にみんながざわつく・・・

権道「初試合ですか・・・」

石崎「どこでやるんですか？」

瞳監督「・・・帝王実業高校2軍」

権道「て・・・帝王！（遠藤・・・）」

山田「2軍なら勝てるんちゃう？」

新田「・・・！遠藤が・・・帝王に入っただはずだ！！！」

矢部「遠藤でやんす・・・か」

春川「時期を考えるとまだ2軍ね・・・」

権道「バ―ロツ!!!おめーら!絶対負けねーぞ!」

目の色を変えてでかい声で叫ぶ

三条「どーしたんだよ?急に!」

権道「(遠藤と・・・戦える・・・)ワクワクすんだよ!」

ワクワクするといい、突然走り出しどこかへ消えていった・・・

4、再会

遠藤「いつちにい．．いつちにい．．．」

誰もが布団に入って寝てる夜中．．遠藤は百合高校との対決が決まって夜も寝れなかった

なのでだれもいない広いパワフル中央公園で一人ランニングをしていたのだ

遠藤「ふう．．」

？「よおっ！遠藤！お前も寝れないのか？」

遠藤「．．．！け．．権道！！！」

権道「よっ！１ヶ月ぶりだな」

遠藤「久しぶり．．．って何でもねーか、１ヶ月だもんな」

権道「そうだな．．まずいいや、一回俺に投げ込んでみる！」

遠藤「俺の球を見て練習試合で打つ気か？」

権道「はっはっはっは！バレた？」

遠藤「別にいいよ、どうせ打てないから」

権道「なに？」

遠藤「見てビビろよ!!!」

スッパアアアアアアアッ!!!!!!

ミットの音が街中に響いた

遠藤「どうだ？」

権道「ジャイロ・・・ボール・・・」

遠藤「その通り!w」

権道「なんて奴だ・・・」

遠藤「ん?1時か・・・じゃ、俺は帰るぜ・・・」

権道「ああ・・・(それにしてもジャイロ・・・か)」

そして・・・当日!

瞳「これが百合高校のデビュー戦よ!快勝してきなさい!」

はいっ!という9人の声が帝王の2軍球場に響く

2軍監督「てめーら、あいつらをぶっ潰してもかまへんぞ、二度と自信をつけさせないようにな!」

遠藤「へーい!」

プレイボール!!!!!!!!!!

5、試合で進化する男

百合高校スターティングメンバー

- 1、初野 遊
- 2、矢部 左
- 3、山田 投
- 4、新田 一
- 5、権道 捕
- 6、春川 三
- 7、石崎 二
- 8、三条 中
- 9、早川 右

審判「プレイボール!!」

初野「っしゃあす!!」

遠藤「威勢のいい人だねw」

初野「てめえが遠藤か!ホームラ・・・」

ズバッ!

審判「ストライツ!」

初野「なっ?」

遠藤「すいません、お話とか嫌いなんです」

初野「こんにやろー！！ホームラン打ってやるよー！！」

遠藤「はいはいムリムリ」

シュッ

ゴオオオオオオオオオ

初野「なーんちゃって」

コッッ

相手の裏をかく三塁線へのバント

遠藤「な・・・？」

素早く動いた初野は投げようとした時にはもう一塁に着いていた

山田「うおおおお！」

早川「まずは出塁ね」

2番矢部

矢部「オイラの強さを見せてやるでやんす！」

しかし、空振り三振

矢部「m9」

3 番山田

山田「球速だけのピッチャーだな！」

遠藤「（！？）いつてくれたな！」

シュツ

グオオオオオオオオオオオ

スパアアアアッ！！！！

ストライツ！！！！1

遠藤「ハアハア・・・」

権道「ひゃ・・・149キロ！」

三条「球速が・・・伸びた」

春川「それだけじゃない・・・驚くべきのキレ、そしてあのボールの起動、回転・・・どれもが・・・」

石崎「進化している・・・」

パアアアッ！

ストライツバッターアウト！

山田「あのボール・・・ジャイロだ・・・」

4番新田も三振で1回表終了

初野「なんだよ？オメーらだらしねえなあ・・・」

帝王実業2軍スターティングメンバー

1、井本 右

2、佐伯 三

3、遠藤 投

4、アレス 一

5、野田 二

6、岡島 中

7、沖 捕

8、川岸 左

9、西元 遊

1番井本

権道はミットを叩き

権道「山田さん！落ち着いて行きましょう！」

山田「ああ・・・」

権道（この選手はバットを短くもってる・・・内角でビビらせましよう）

しかし山田の放った剛速球は内角に入りすぎ、足に当たり、デットボールとなった

権道「山田さん！ゆっくり行きましょう！」

2番佐伯

山田「ゆっくり・・・ゆっくり・・・」

シュツ！

しかし大きく左にそれ、なんとか権道が上手く捕ったが、井本が2塁に進んだ

瞳監督「・・・山田くん！交代よ」

山田「ま・・・まだ行けるで！ちょっと肩の調子が悪いだけやで？」

瞳監督「肩の調子悪い人には投げさせないわ、早川さんに代わってもらいます」

山田「・・・はい」

そうするとトボトボと山田は外野に歩いて行った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2340i/>

パワプロ小説 百合高校

2010年10月9日05時57分発行